

MIKIMOTO 第60回 日本赤十字社 献血チャリティ・コンサート New Year Concert 2019

【出演者プロフィール】

●小林研一郎（指揮）Ken-ichiro KOBAYASHI, conductor



東京藝術大学作曲科および指揮科を卒業。第1回ブダペスト国際指揮者コンクールでの鮮烈な優勝を飾ったのを皮切りに、世界的に活躍の場を拡げ、現在も国内外の第一線で活躍を続けている。

特に、ハンガリーでの活躍は目覚ましく、その功績に対してハンガリー政府よりリスト記念勲章、ハンガリー文化勲章、民間人最高位となる星付中十字勲章、ならびにハンガリー文化大使の称号が授与されている。また、国内では文化庁長官表彰、旭日中綬章を受けている。

作曲家としても数多くの作品を書き、1999年には日本・オランダ交流400年の記念委嘱作品、管弦楽曲『パッサカリア』を作曲、ネーデ

ルラント・フィルで初演されると、聴衆から熱狂的な喝采を以て迎えられた。同作品はそれ以降も様々な機会に再演されている。

精力的な音楽活動の他に、各種媒体への寄稿などエッセイの執筆も行っており、その纖細で情感豊かな語り口でマルチな才能を発揮している。既刊の書籍には、『指揮者のひとりごと』（騎虎書房）、『小林研一郎とオーケストラへ行こう』（旬報社）がある。

現在、日本フィルハーモニー交響楽団桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者、読売日本交響楽団特別客演指揮者、九州交響楽団の名誉客演指揮者等を務めるほか、東京文化会館音楽監督、長野県芸術監督団音楽監督、東京藝術大学・東京音楽大学・リスト音楽院名誉教授の要職にある。

●仲道郁代（ピアノ）Ikuyo NAKAMICHI, Piano



桐朋学園大学1年在学中に日本音楽コンクール第1位・増沢賞を受賞。ジュネーヴ国際コンクール最高位、エリザベート王妃国際コンクール入賞。これまで日本的主要オーケストラと共に演奏する他、マゼール指揮ピツバーグ響、バイエルン放送響、フィルハーモニア管、パーソ・ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルなどと共に演奏。デビュー30周年を迎えた2016/17年シーズンは、ゲヴァントハウス弦楽四重奏団、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団とのツアーやBSフジでの冠番組も放送された。併せて、CD『ショパン：ワルツ』、『永遠のショパン』、『シューマン：ファンタジー』やDVD『ショパン・ライヴ・アット・サントリーホール』をリリース。

2018年度からは、「Road to 2027」と題し、春のベートーヴェンを核にしたシリーズと秋のピアニズムを追求したシリーズを10年にわたって開催する。春のシリーズ第2回は2019年5月26日（日）サントリーホールにて開催予定。著作には『ピアニストはおもしろい』（春秋社）などがある。地域創造理事、桐朋学園大学教授、大阪音楽大学特任教授。
仲道郁代オフィシャル・ホームページ <http://www.ikuyo-nakamichi.com>

●東京都交響楽団 Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra



東京オリンピックの記念文化事業として1965年東京都が設立（略称：都響）。現在、大野和士が音楽監督、小泉和裕が終身名誉指揮者、アラン・ギルバートが首席客演指揮者、エリアフ・インバルが桂冠指揮者を務めている。

定期演奏会などを中心に、小中学生への音楽鑑賞教室（50回以上／年）、青少年への音楽普及プログラム、多摩・島しょ地域での訪問演奏、ハンディキャップを持つ方のための「ふれあいコンサート」や福祉施設での出張演奏など、多彩な活動を展開。

CDリリースは、インバルによる『マーラー：交響曲全集』のほか、交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）まで多岐にわたる。

2015年11月にベルリン、ウィーンなど5ヶ国6都市をめぐるヨーロッパ・ツアーを行い、各地で熱烈な喝采を浴びた。《首都東京の音楽大使》として、来たる東京2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、文化芸術の活性化を目指している。

公式WEBサイト <http://www.tmso.or.jp/>